

涼峰（りょうほう）

登録番号：第 15019 号

登録年月日：平成 19 年 3 月 15 日

登録者：長崎県（長崎県長崎市江戸町 2 番 13 号）

育成者：一瀬 至 森田 昭 橋本基之
寺井理治 浅田謙介 中尾 敬
吉田俊雄 富永由紀子 長門

潤 稗圃直史 佐藤義彦 福田

伸二 根角博久

来歴：「楠」と「茂木」の交雑実生

育成地：長崎県大村市（長崎県果樹試験場〔農林水産省びわく育種指定試験地〕）

特性

■栽培特性

樹姿は開張性と直立性の中間で、「長崎早生」や「茂木」よりも開張する。樹勢はやや強いが「長崎早生」や「茂木」ほど強くない。枝の太さは中程度で、枝の発生は「長崎早生」と比較してやや密に発生する。葉は「長崎早生」や「茂木」よりも小さく、葉色は淡緑色である。育成地（長崎県大村市）における満開期は 12 月中旬で、「長崎早生」より遅く「茂木」よりも早い。着花性は中心枝、副しょうともに良好である。

■果実特性

育成地における成熟期は 5 月中・下旬で「長崎早生」とほぼ同時期であり、「茂木」よりも約 1 週間早い。果形は短卵形で果皮および果肉は橙黄色である。果頂部は平で萼孔（へそ）はやや開いている。平均果実重は 55g 程度であり「長崎早生」や「茂木」と比べ明らかに大果である。剥皮性は良好である。果肉は軟らかく多汁で食味は優れている。果汁の糖度は平均 11.4%、酸含量は平均 0.23g/100ml で、ともに「長崎早生」や「茂木」と同程度である。果皮障害では、へそ黒症および緑斑症の発生は認められないが、紫斑症、裂果、そばかす症が発生しやすい。裂果は、成熟期に雨量の少ない瀬戸内地域で少ない傾向がある。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

がんしゅ病に対しては、C グループ菌に対しては罹病性であるものの、A および B グループ菌には抵抗性である。また、圃場における発生も少なく、「茂木」よりも強いいため、慣行の防除で栽培上特に問題はない。

また、これまでの試験栽培で特に問題となる病害虫は認められていない。寒害に対しては「長崎早生」よりも強いが「茂木」よりも弱いので、「茂木」の栽培地域では寒害対策が必要である。気候、土壌などの条件によりそばかす症や裂果が多発することがあるので、導入に際しては留意する必要がある。また、紫斑症が発生しやすいので遮光性の高い袋を使用する。

■地域適応性

幼果の耐寒性の観点から、冬季温暖で「長崎早生」の栽培が可能な地域への導入が望ましい。「茂木」の栽培地域に導入する場合には寒害対策を施す必要がある。また、裂果およびそばかす症の発生が多い傾向があるので、果実の生育期に降雨が少ない地域が栽培に適している。

施設栽培においても露地栽培と概ね同様の特性を発揮し、「長崎早生」で発生が多いへそ黒症や果頂部のしなびが発生しないため、施設栽培にも適している。なお、施設栽培では「長崎早生」よりも若干成熟が遅れる傾向がある。

（稗圃直史）